

2022年10月9日（日）メッセージアウトライン 「共に一つになって生きる喜び」

聖書箇所：詩篇133：1～3、詩篇122：1～9

タイトル：「共に一つになって生きる喜び」

テーマ：名古屋緑福音教会がスタートして、この10月で40周年という記念の年を迎えることができました。

この40年間、様々な紆余曲折があり、それでも今、この教会が主の教会としてしっかりと建て上げられ、成長させていただいている恵みを感謝しながら、本日の聖書箇所は、都上りの歌と呼ばれる詩篇120篇から134篇の中の、詩篇122：1～9、詩篇133：1～3を取り上げます。

都上りの歌では主の民とされたイスラエルの人々が、巡礼祭でエルサレムに集まり、そして、エルサレム神殿で主を礼拝することの喜び、主の民が兄弟姉妹として神の家族として一つとされること、共に生きることの喜びが歌われています。

現代に目を転じてみれば、教会は神の家族であり、聖霊の共同体とも呼ばれ、キリストにあって一つとされた者たちが、共に主を礼拝し、共に祈り、交わりをなし、慰め合い励まし合い、喜びも悲しみも分かち合う群れであります。

創立以来、40周年歩み続けて来た私たちの教会が、今後どのように成長し、主のご栄光を現わすことができるかは、ひとえに私たちが「共に一つとなって生きる喜び」を共有できるかどうかにかかっていると云っても過言ではありません。今日の聖書からその事実を確かめてみましょう。

## 1. 初めに

## 2. 詩篇122：1～9 （ダビデによる都上りの歌）

### ①「さあ、主の家に行こう。」

主の家——神の家、エルサレムの神殿（ここには多くの部族、主の部族が上って来る。）

その目的

- \* 「イスラエル」（神は争われる、神に勝利した者という意味）は神からの恵みによって主の民とされた。
- \* 主の御名に感謝するために——主を礼拝するために
- \* そこには裁きの座、ダビデの家の王座がある——その礼拝の真ただ中に主がご臨在くださる
- \* エルサレムの平和のために祈れ——民が心一つとなって愛し合い、平和の絆で結ばれるように
- \* あなたの城壁の内に平和があるように——主の御手の守りの中に入れられている者たちが心一つとなっている平和な情景

\*イスラエルの民——主の民——クリスチャン

### 3. 詩篇133：1～3（都上りの歌、ダビデによる）

#### ①「見よ。なんとという幸せ。なんとという楽しさだろう。」1節

主の民が一つとなって共に生きること、共に礼拝を捧げることのできる喜びをダビデは歌っている。

#### ②「それは 頭に注がれた貴い油のようだ。それは ひげに アロンのひげに流れて衣の端まで流れ滴る。」2節

\*「注ぎの油をアロンの頭に注いだ。こうして彼に油注ぎを行ない、彼を聖別した。」  
レビ記8：12

\*イエス・キリストは私たちが告白する信仰の大祭司である

・「天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。」ヘブル3：1

・「私たちにはこのような大祭司がおられるということです。この方は天におられる大いなる方の右に座し、人間によってではなく、主によって設けられた、真の幕屋、聖所で仕えておられます。」ヘブル8：1～2

#### ③「ヘルモンからシオンの山々に降りる露のようだ。」3節

\*ヘルモン山は海拔、約2800メートルの山。年中雪をいただき、その雪解けの水はヨルダンの主要な水源となっている。

\*シオンの山々——エルサレム全体を指す言葉として用いられるようになった。

### 4. 結論

#### ①今年度の当教会の年間聖句が。詩篇133篇1節とマタイの福音書5章9節であるのは、実に主の導きであったとあらためて感謝しております。

「見よ。なんとという幸せ なんとという楽しさだろう。兄弟たちが一つになって ともに生きることは。」 詩篇133：1

「平和をつくる者は幸いです。その人たちは神の子どもと呼ばれるからです。」

マタイ5：9

#### ②これから先、この名古屋緑福音教会が主の教会としてなお成長し、存続していくにあたって、40周年を迎えた教会に与えられた二つのみことばは、神が私たちに永遠にこのように歩むようにと願っておられる願いと、永遠に主の民として仕えていきたいと願う私たちの思いが重なるみことばです。

これからも共に一つになって生きる喜びを体験させていただきながら、この教会がキリストの教会として、世の人々にキリストの福音を伝え、私たちの生き方を通して主を証しし、主が再び来られる日を待ち望み、あらゆる国の人々との間の隔ての壁が取り除かれて、全世界が主にあって一つとされる日が来るよう祈り続けてまいりましょう。